

協働的アセスメントのメンタルヘルス活動への応用



研究概要

キーワード 協働的アセスメント/メンタルヘルス/ストレスマネジメント

心理専門職が行う心理アセスメントの対象は、心理的問題をもつ人が主ですが、今後はより健康度の高い人に向けて、自分の心理的特徴を知りそれを生かす事への援助を行う場面が増えると思われます。そこで協働的アセスメントの手法を取り入れ、より広い対象に適用できるコミュニケーションの方法を提案したいと思っています。

心理検査を用いた協働的アセスメントを様々な対象に行い、効果の検証や洗練された手続きの確立を目指しています。心理検査を用いることで対象者の心理的特徴や話し合うべき課題を短時間で共有でき、対象者の理解も深まります。ここでの協働的な作業が対象者のWell-beingやresilienceに与える影響も今後の研究課題になります。

今後の展開やメッセージ

働く人のメンタルヘルスをどう高めていくかは、企業や組織においても重要な安全管理の課題です。本研究の成果は、働く人の強みを伸ばし、やりがいを見出す働き方を模索する人だけでなく、組織への提案につながるものと期待しています。

研究者情報



大矢 寿美子 教授・博士(心理学)

基礎教育部 修学基礎教育課程
所属研究所：心理科学研究所

中京大学文学部心理学科卒。同大学大学院文学研究科修士課程、同博士課程(心理学)修了。相山女学園大学人間関係学部助手を経て、2003年本学助教授就任。2008年現職。臨床心理士として精神科病院臨床にも携わった経験あり。

研究者情報URL

<https://kitap01.kanazawa-it.ac.jp/researcherdb/researcher/RADAAH.html>